



つのだ みつお
角田 光雄さん (三郷)

不安(ふあん)な人もファンになるように、みんなで応援したいものです。のびしろ日本一!

みんなが楽しい日本一の「道の駅」を目指して 一人ひとりのアイデアを大切にしながら、 ファン、サポーターを生み育てます! そもそも「道の駅」とは

道の駅は、もともとは道路利用者の休憩施設でしたが、現在ではまちの特産物や観光資源を活かして人を呼び込み、地域に活力を生み出す拠点として活用されています。

全国には1,134か所、県内には13か所の道の駅があり、これから更に増えることが予想され、「道の駅間の競争時代になる」とも言われています。

平成31年に国道50号下館バイパス沿い川澄地区に開業予定の「道の駅」の建設工事が、いよいよ始まりました。駅長の鈴木一志さんに、特徴や目標などお話を伺いました。

楽しい施設が盛りだくさん！ 三世代で楽しめます

最大の特徴は、なんとと言っても県内最大級の広大な敷地です。直径60メートルの芝生広場を中心に、直売・レストラン棟、野外ステージなどが整備されます。従来の道の駅は、シニア・シルバー層を対象としているのですが、筑西市の道の駅では若者・子育て世代まで三世代で楽しめるように子ども向けの遊具設置や、イベントの企画を練っているそうです。



▲国道50号下館バイパス沿い(川澄)の建設現場。南東方向に筑波山を望み、周囲を田んぼに囲まれる優れた景観。

市民からの大きな期待

先日、道の駅に農産物の出荷を希望する人向けの説明会が行われ、私も参加しました。協和地区では定員以上の参加があり、期待の大きさがわかります。「野菜はどろ付きのものも喜ばれるのでは」「かぼちゃは扱いやすいサイズに」など、お客様目線のアイデアがいくつもありました。これまで出荷の経験がなく、不安を抱く人からの質問にも事務局は「生産履歴の記帳などの品質管理や、安定的な出荷量の確保は条件となりますが、ぜひ挑戦して欲しい」と応えました。このような取り組みに、ファン、サポーターが生まれそうです。

取材を通して

鈴木駅長は「道の駅を作ることはとてもやりがいがある。やるからには日本一の道の駅を目指したい!」と意気込みを話します。取材の際も、私たちの提案を記録する姿に、いろいろな人の意見を取り入れて道の駅を作ろうとする姿勢を感じました。今から開業が楽しみです。

問道の駅整備課 (本庁3階)

☎45-6006



平成30年4月現在の構想

▲道の駅完成予想図。約48,000平方メートルの広大な敷地に、360台の駐車スペース。従来の道の駅にはない、野外ステージや展望デッキなどが整備されます。



▲農産物の出荷を呼びかける駅長の鈴木一志さん。百貨店勤務30年以上の経験を生かして出荷者を支援します。